あの人を胸に抱いて

牧草　泉

人生を振り返ると、山があり谷があった
他の人にとっては
山は感激そうして幸福だろう
俺にとっては山はほんの少しで
谷ばかりだった
でも、ここまで生き永らえてきた
ルービンシュタインは言う
「リサイタルが楽しいのは
目の前の観客席を見ながら弾くからだ
そう、あの人のために弾いているんだ
と思うからだ」
俺もあの人の面影を抱きしめ
必死で生きてきた

あの人は
俺の不幸に涙してくれた
温かく励ましてくれた
束の間の幸福を喜んでくれた
俺は、あの人の笑顔を思い浮かべて
荒野を駆けた
つまずいては倒れ、涙した
でも、起き上がってはまた駆けた

振り返れば平凡な半生だったと思う
でも、これでいいのだ
そう思いながら
今日もユーチューブに身を任せ
ハリー・ボルカーのピアノに浸る

限りなく小さな確率

同じ街で暮らしていながら
一度も出逢えない
なぜ？　なぜ？　なぜ？
長い時の空白を経て
恋を成就させた人々もいるのに
時は流れて三十数年
後姿さえも見ることがない
「確率は零ではないのだ」
F市という狭い空間にいるんだから
あの笑顔　あの声　あのやさしさ
あの人に逢いたい
友人は言う
「確率は確率でしかないんだ」
絶望と諦観が襲いかかる
でも逢いたい　一度でいいから
そうして

「さようなら」と言いたい
時間よ　時間よ
少しでいいから止まってほしい
でも
時間は　無常に流れていく
確率は　無情だ　残酷だ

「心に太陽を」

先生が
いつも朗誦した
ボクたちも真似て高唱した
先生の澄んだ瞳は
いつも前を見ていた
ボクたちも真似て前を見た
社会に出ても
前を見て逸らさなかった
悲しいときは
先生の瞳を思い浮かべた
全身に力が漲った
そうして
荒野を駆けた

先生
ありがとう

ボクたちも元気だよ
これからも頑張るよ
先生
長生きしてね